


# 障害者生活

## ネットワークうらわ

(障害者生活ネットワークうらわ)



### 1 施設の概要

定員	地域活動支援センター 10人
所在地	さいたま市桜区 大久保領家 574  <a href="https://goo.gl/maps/DcgXfW5ZuGzczcwEA">https://goo.gl/maps/DcgXfW5ZuGzczcwEA</a>
アクセス	北浦和駅もしくは南与野駅からバス 「埼玉大学行き」の終点埼玉大学で下車後、徒歩5分
連絡先	TEL : 048-855-8438 FAX : 048-855-8439 e-mail : nijinokai@nijirock.com
開設日	1997年4月
開所日時	火曜日以外の9:30~19:00

平均年齢	平均 : 38歳 最年少 : 28歳 最年長 : 47歳
送迎範囲	応相談
食事提供	あり(主に朝。他は不定期) (1食あたり負担なし)
賃金・工賃	3,000~64,600円
車いす	受入可
医療的ケア	なし
その他設備 (該当に○)	エレベーター なし ユニバーサルシート (大人用ベッド) なし

### 2 施設の運営方針・理念



障害者生活ネットワークうらわは、リサイクルショップ「にじ屋」(2001年~)を運営しながら働くということを考え、同時に生活面では、親に頼

らなくても生活できること(金銭面や、地域の中で生活する上でのハードルを越えるのに親の力を借りず仲間どうしで助けあうこと)、より豊かな生活を送ることを目標に活動しています。

にじ屋は、「どんなに障害が重くても地域で暮らしたい!虹の会」が母体となって生まれた、リサイクル品を中心に扱うお店です。障害のある人もない人も、それぞれが自分の力を活かして働ける場所を目指しています。

にじ屋において障害者は雇われるのではなく、ひとりひとりが経営者であり、自分の働く場所をつくっていくところです。給料も、もらうものではなく「自分たちでつくるもの」という意識でいます。

週に一度おこなっている職員会議は、障害のある人もない人も職員全員が参加する場であり「全ての決定の場」です。そして障害者だから指導される側、健体者だから指導する側という線引きはせず、あとから入ってきた人は皆後輩です。先輩の障害者から後輩の健体者へ仕事を教えるということも当然あります。障害のある人とない人が一緒に働くとはどういうことか、日々考えながら実践していく場、それがにじ屋です。また、障害のある人と言っても様々です。働くことをめざしつつ、まずは皆と一緒にいるということから始めます。仕事も「これができなければダメ」ということはありません。その人と、どうしたら一緒にいられるか、働けるかを考えていきます。

また自分たちの働く場として全員が主体的に運営していくために、親御さんによる運営への参加はご遠慮いただいています。

私たちには今、給料を10万円にしたいという願いがあります。障害者＝低い給料、という状況を壊したいです。また、家に帰って食事をして寝るだけの生活ではなく、旅行に行ったり、コンサートに行ったり、同僚と仕事後に飲みに行った

り、好きな服を買いに行ったりと、より生活を豊かに生きていきたいという思いがあるからです。

「こんな生活をしたい」という夢があるからこそ仕事も頑張れます。そしてそこで得た給料は親に決められた「こづかい」ではなく、自分のものとして使いたい。

すでに一人暮らしをしている人も半数近くいますが、障害があっても成人したら親に頼らず生活していける方法を模索しています。

障害があっても、地域で暮らし、青春を満喫し、そして仲間たちとともに成長しながら、互いに素敵な大人として人生を過ごすことが出来るように。そんな大きな目標を持って、障害者生活ネットワークうらわは活動を続けています。

そして常に、自分たちの活動を地域の一般のみなさんに伝える努力をしています。障害があっても働きたい人は働き、そして障害のない人がそうしているのと同じように地域で暮らしていきたい。そんな私たちのことを応援してくれる人をどんどん増やしていきたいです。

### 3 事業内容の紹介



障害者生活ネットワークうらわの毎日は、にじ屋を中心に回っています。

にじ屋は地域の方から提供いただいたものを販売し、その売上を障害のある職員の給与としています。提供者はさいたま市内を中心に1万軒近く。毎週のべ300～400人のお客さんが来店し、年間売上は1,500万円超。

まずは提供品を集めるためのビラを作り、そのビラを地域のお宅に配ります。提供品は宅配便で届いたり、にじ屋への持ち込みだったり、こちらから回収に行ったりします。

次に提供されてきた品物を仕分け（ゴミ出し&種類分け）し、値付けし、陳列して販売します。よりたくさん売るための売り場づくり、イベントの企画なども考えます。障害のある人もない人も皆一緒に考え、それぞれの得意なところを活かして仕事を分担します。

にじ屋の1週間の動きをご紹介します。

月曜日の午前中は、前週に集まった提供品を仕分け（ゴミ出し、種類分け）。午後は会議。

火曜日は休み。

水曜日～日曜日の10:30～18:00がにじ屋の営業日時です。この中でにじ屋を営業しながら、ビラ配り、品物回収、値付けなども分かれておこないます。水曜日～日曜日の中でもう1日休みを交代でとります。  
※写真上は、地域の方にお願ひして店頭やお家の壁等に立てさせてもらっているにじ屋看板。



次に、にじ屋以外の様子をご紹介します。主に、仕事の後や休みの日の様子です。

自分で稼いだ給料を、どう豊かに使っていくか。基本的には本人の自由ですが、不安な人は誰かに手伝ってもらいながら給料の「封筒分け」をします。家賃、光熱費、食費、携帯の支払い、飲み会代、洋服代…。

もし買い物に行くとき、ひとりで行けなかったり不安な時は誰かに一緒に行ってもらいます。

「今日は呑みたいなあ」なんていう日は誘い合って居酒屋へ行ったり、誰かの家で呑んだり。

趣味の合う人どうし誘い合って、ライブやプロレス観戦、映画鑑賞などにも出かけます。それらは「行事」や「レクリエーション」ではなく、障害のない人たちがそう生活しているのと同じように、突発的なものです。

髪を染めたり好きな服を着たり…モテたい！ので見た目にも気をつかいます。

実家から出て、一人暮らしや数人で一緒に暮らしているメンバーもいます。困ったことがあれば他のメンバーに相談しながら生活しています。大切なのは自分ひとりでできることではなく、困ったときにすぐ誰かに相談できること。





にじ屋メンバーの有志が参加する「スーパー猛毒ちんどん」というバンド活動もあります。ちんどんとは名ばかりで、基本的にはロックショーです。ドラム、ベース、ギター、ボーカル、踊り、旗振り、音響、絶叫担当と、さながら魑魅魍魎、混沌の演舞。自分たちの思いや生活を歌ったオリジナル曲とカバー曲で構成しています。障害者のバンドと言ったとき一般の人が想像する「ほのぼの」「勇気や元気をもらえる」というものとはかけ離れていると思います。障害者はだれかに勇気を与えるために生きているわけじゃない。お世話される対象としての障害者像を壊したい。そんな思いで活動しています。これまでに、埼玉や東京、大阪などでのいくつかのイベントに参加したり、ライブハウスでのワンマンライブも何度かおこなっています（現在はコロナ感染防止のため活動停止中）。



母体である虹の会では毎月機関紙を発行しており、その中で障害者生活ネットワークうらわの様子もたくさんの写真と共にお伝えしています。皆で原稿を書き、自分たちで印刷、組み、封詰め、発送をします。





## 4 事業の紹介写真



ひとり暮らしのメンバーを中心に、事務所で朝ご飯。



仕事前に運動をしているメンバーもいます。



事務所で顔をそろえたあと、にじ屋へ移動します（自転車 or 車）。  
※写真はにじ屋外観



にじ屋は、地域の方からの提供品なしでは成り立ちません。その宣伝ビラ配りは重要！



品物回収。機関紙を読んでいる提供者から「〇〇くんね！」と声をかけてもらうことも。



提供品の仕分け。お客さんをはっきりさせないよう、売れる物と売れない物をきっちり分けます。



品物の値付け。ひとりひとりがやりやすいような工夫もしています。



売り場も自分たちで作ります。



陳列。毎週の新着品を出すことに加え、お客さんが触ったあとの売り場整理も重要。



会計に立つ人もいます。



店内マイク宣伝。  
※写真ではピンマイクを使っています。



閉店後、事務所に戻ってその日の反省会をして仕事は終わり。



月に一度の機関紙発送作業。自分たちの様子を伝えることで、多くの地域のみなさんが応援者になってくれます。



週に一度の会議。障害のあるなし関係なく全員で全てのことを決めます。





有志で市民マラソン大会にも出ます。写真は「勝田フルマラソン」。(コロナ禍では行っていない)



自治会の盆踊りに毎年参加。「虹の会」のブースを自治会の方が用意して下さる。



外部のイベントに呼ばれて出演することもある。



にじ屋「一斉ビラ配り」。にじ屋への提供品募集のビラなどをたくさん配るため、外部の人に手伝っていただく。打ち上げでさらに仲良くなり、にじ屋を応援してくれるみなさんとなる。(コロナ禍では内輪だけでやっている)



一人暮らしの引越をみんなの手伝う。



にじ屋新春イベントにマジシャンを呼んだ。(コロナ禍では外からお客さんを集めるイベントは中止)



知的障害をもつ3人が暮らす家に集まって、年末、仕事納めのあと飲み会。



にじ屋で着物の大売り出し「着物市」。お客さんに楽しんでもらうため、自分たちも楽しむ。写真は女装したところ。



にじ屋新春餅つき (コロナ禍では中止)。にじ屋のお客さんがいつも楽しみにしてしてくれる。甘酒等の販売もする。



## 5 年間行事の紹介



行事名：にじ屋のイベント

時期：不定期

場所：にじ屋

内容：にじ屋の売上を上げるため、または自分たちの活動を知ってもらうため、地域の人たちを呼び込むことが目的。

※写真は大日本プロレスを呼んだイベント「筋肉火祭り」。



行事名：旅行

時期：不定期（年1～2回）

場所：みんなで行きたいところを出し合って決める

内容：思い切り楽しむ。そのため、親御さんの参加は無し。



行事名：スーパー猛毒ちんどんライブ

時期：不定期

場所：関東、大阪など。ライブハウスや屋外。

内容：歌って踊って叫ぶ。（コロナ感染防止のため、現在は活動停止）

※写真は大阪でのライブ。

## 6 施設の自慢・特色



井上（40歳、22年目、大宮北養護学校卒）から後輩に伝えたい自慢

- ・親が来ない
- ・名札がない
- ・作業服もない（自分の好きな服を着る）
- ・障害者どうしだけでもお酒を飲む
- ・ひとり暮らしのことも困ったらすぐ相談できる
- ・にじ屋のお客さんと仲良くなれる。名前も覚えた。
- ・嫌なことは嫌だと言えるし、相談して解決できる。
- ・自分の体調に合わせて仕事ができる。無理しない。
- ・仲間どうしケンカができる。
- ・にじ屋の常連のお客さんが差し入れをくれる。
- ・自分の人生を曲にできる（スーパー猛毒ちんどん）
- ・にじ屋にプロマジシャンやプロレスラーが来る（にじ屋イベント）。
- ・市から来る難しい書類は、親が勝手に手続きするんじゃなくて、自分から仲間に相談して手伝ってもらって書く。
- ・機関紙の写真が楽しい。
- ・先輩後輩関係なく仲がいい
- ・にじ屋の品物は、きれいな物だけを自信を持って出している。
- ・失敗したことを堂々と言える。





ミツ（37歳、19年目、大宮北養護学校卒）から後輩に伝えたい自慢

- ・給料がいい。
- ・お酒が飲みたいと思ったら、すぐ誰かを誘って飲みに行ける。居酒屋にも行くし、誰かの家でも飲む。
- ・仕事は健体者から指図されるんじゃなく、自分の考えで楽しくできる。
- ・困ったらすぐに相談できる仲間がいる。
- ・健体者が命令してこない。
- ・地域の人が味方になってくれる。よく行くお弁当屋さんや居酒屋の店長と仲良くなった。いつも自分のことを気にかけてくれている。